資料番号	2

令和７年２月４日
課　名　地域政策局
　　平和推進ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ﾁｰﾑ
担当者　担当課長（国際連携担当）西澤
内　線　2466

ジュネーブでの核兵器廃絶に向けた働きかけ結果について

１　要旨・目的

昨年 12 月２日～８日の日程で、へいわ創造機構ひろしま（ＨＯＰｅ）の島田久仁彦プリンシパル・ディレクターが、スイスのジュネーブを訪問し、県やＨＯＰｅの取組を発信し、核兵器廃絶に向けた働きかけを行った。

２　現状・背景

昨年９月にニューヨークで開催された国連未来サミットの結果を受けて、グローバル シティズ ハブ(Global Cities Hub、ＧＣＨ)が 12 月にジュネーブで開催した「ＧＣＨ年次リトリート 2024」(国連の議論に地方自治体が関与する方法について話し合う対面会議）への招待があった。

※ グローバル シティズ ハブ(ＧＣＨ)：都市や広域自治体、地域政府といった地方団体が、多国間プロセスに貢献できるよう支援し、またジュネーブの国連やその他の国際機関、各国の代表者、学術界や市民社会などの幅広い関係者を含む国際的な諸団体と関係を構築できるよう支援する協会。

３　概要

「ＧＣＨ年次リトリート 2024」へ出席するとともに、ジュネーブの各国政府関係者等に直接面会し、本県の取組への賛同を働きかけた。

【日程等】　　（月日は現地時間）

月日	行　事	場　所
12／３（火）	・在ジュネーブ国際機関スウェーデン政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関タイ政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関カザフスタン政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関エルサルバドル政府代表部との面会	ジュネーブ
12／４（水）	・在ジュネーブ国際機関メキシコ政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関ジャマイカ政府代表部との面会 ・軍縮会議ブラジル政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関ニュージーランド政府代表部との面会	
12／５（木）	・在ジュネーブ国際機関南アフリカ政府代表部との面会 ・軍縮会議ドイツ政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関エジプト政府代表部との面会	
12／６（金）	・ＧＣＨ年次リトリート 2024 出席 ・在ジュネーブ国際機関コスタリカ政府代表部との面会 ・在ジュネーブ国際機関スイス政府代表部との面会	

(1)　「ＧＣＨ年次リトリート 2024」への出席【12 月６日（金)】

グローバル課題等の意思決定における都市と地域の役割や、国連の場で自治体が発言権を持った未来のイメージについて議論する中で、県／ＨＯＰｅからは、ＳＤＧｓに続く次期国連目標の設定に向けて、持続可能性の観点から、核兵器廃絶の必要性を訴えた。

【日　程】令和６年 12 月６日（金）9:30～16:30

【場　所】ジュネーブ（スイス）
【主　催】グローバル シティズ ハブ（ＧＣＨ）
【テーマ】「国家を超えた国連：グローバル課題等の意思決定における都市と地域の役割」
【参加者】自治体、自治体ネットワーク、各国政府、国際機関の代表者

(2)　各国政府関係者への働きかけ【12 月３日（火）～12 月６日（金）】

滞在期間中、各国政府関係者と個別に面会し、県／ＨＯＰｅが進める核兵器廃絶に向けた取組について説明し、協力を求めるとともに、核兵器を取り巻く国際情勢の今後の展望などについて、意見交換を行い、今後とも、核軍縮の取組を進めてもらうよう、直接、働きかけを行った。

ア　エスケイグ公使参事官（在ジュネーブ国際機関スウェーデン政府代表部）との面会

公使参事官からは、県／ＨＯＰｅの提案は、核兵器廃絶の動きの停滞に風穴を開けるものとして評価する。持続可能性の観点は面白く、アプローチをしっかりと考えて取り組む必要があるとの助言があった。

イ　ウサナ・ベラナンダ大使（在ジュネーブ国際機関タイ政府代表部）との面会

大使からは、核兵器廃絶に向けて、非難する国もあるかと思うが、決して諦めずに取り組んで欲しい。ニューヨークで開催されるＮＰＴ等の国際会議の時にも意見交換を続けていきたいとの話があった。

ウ　アルセン・オマロフ公使参事官（在ジュネーブ国際機関カザフスタン政府代表部）との面会

公使参事官からは、県／ＨＯＰｅの提案がアップデートされていることを評価する。今後もイベントへの参加などを通じて連携していきたいとの話があった。

エ　エスコバール次席大使等（在ジュネーブ国際機関エルサルバドル政府代表部）との面会

次席大使等からは、特に軍縮・非人道性、そして持続可能性を包括的に扱うアプローチは素晴らしい。大いに賛同できる。是非連携を深めていきたいとの話があった。

オ　アルフォンソ・マルティネス次席大使等（在ジュネーブ国際機関メキシコ政府代表部）との面会

次席大使等からは、核廃絶および核軍縮の問題を、平和と安全保障の観点と非人道性に加え、持続可能性の観点も加えて、包括的に議論することが大事であり、各国の意見を取り入れて提案をアップデートし、着実に活動していることを評価するとの話があった。

カ　リチャード・ブラウン大使（在ジュネーブ国際機関ジャマイカ政府代表部）との面会

大使からは、県／ＨＯＰｅの提案に大変共感を覚えている。非人道性と安全保障の議論に加えて、持続可能性の議論を行うことで包括的なアプローチを取ることが出来ると思う。また核抑止に頼らず各国が安全を担保する安全保障のあり方について非常に関心があるとの話があった。

キ　メイヤー大使等（軍縮会議ブラジル政府代表部）との面会

大使等からは、昨今の国際情勢の下で、核兵器が使われるようなことは、決して国際社

会は許してはならない。核兵器廃絶に向けた包括的なアプローチは後押しすべきであり、様々な政治的な圧力もあるだろうが、諦めずに取組を進めるようお願いするとの話があった。

ク　ニコラス・クラッターバック次席代表（在ジュネーブ国際機関ニュージーランド政府代表部）との面会

次席代表からは、県／ＨＯＰｅの取組である包括的なアプローチへ賛同の意を示され、今後の連携についても話があった。

ケ　ツォロフェロ・ツェオレ副常駐代表等（在ジュネーブ国際機関南アフリカ政府代表部）との面会

副常駐代表等からは、県／ＨＯＰｅの提唱する核廃絶と持続可能性の議論を包括的に扱うアプローチは素晴らしい。今後、核兵器廃絶に向けた動きをするにあたり、核保有国や核の傘の国にも積極的にアピールをしていくべきとの話があった。

コ　トーマス・ゲーベル大使（軍縮会議ドイツ政府代表部）との面会

大使からは、県／ＨＯＰｅには核兵器廃絶に向けたアイデアを提供し続ける役割を期待したい。核兵器廃絶に向けた努力は、絶対に後戻りしてはいけない。そのために県／ＨＯＰｅは非難を受けるような事態が起こっても、めげずに続けていって欲しいとの話があった。

サ　モハメド・エルギタニー次席代表（在ジュネーブ国際機関エジプト政府代表部）との面会

次席代表からは、県／ＨＯＰｅの取組を実現していくためには、可能な限り、今後どのようなプロセスで提案を具体的な行動に移すのかを文書化して展開することが重要である。県／ＨＯＰｅに依頼したいのは、提案は何をきっかけに生まれ、どこを目指しているのかを明確にしながら、持続的に、提案や考え、アイデアを出し続けることであるとの話があった。

シ　モクリスチャン・ギュイラメト・フェルナンデス大使（在ジュネーブ国際機関コスタリカ政府代表部）との面会

大使からは、県／ＨＯＰｅの取組に非常に感銘を受けている。特に軍縮と気候変動や生物多様性といった持続可能性の議論を包括的に扱うアプローチは素晴らしいと考えているとの話があった。

ス　フランツ・ペレス大使（多国間問題担当）等（在ジュネーブ国際機関スイス政府代表部）との面会

大使等からは、県／ＨＯＰｅの取組については、内容をしっかりと検討していくので、今後も意見交換を続けていきたいとの話があった。

４　予算（単県）

２，５００千円（ＨＯＰｅ負担金）

５　成果

〔「ＧＣＨ年次リトリート 2024」への貢献〕

・　「ＧＣＨ年次リトリート 2024」参加者等との議論を通して、持続可能性の観点から、核兵器廃絶と核軍縮の重要性を訴え、国連が進めている多様なアクターの参加について、地方自治体の存在の重要性を高める提案ができた。

〔賛同者の拡大〕

・　各国政府関係者等との面会や「ＧＣＨ年次リトリート 2024」への参加を通じて、持続可能性の観点から核兵器問題を提起するアプローチについて、多くの賛同を得ることができ、今後の活動に向けた具体的な助言を得ることができた。

〔被爆地からの発信力強化〕

・　核兵器問題を持続可能性の観点から捉え直し、働きかけを進めるアプローチについて、知事の代理であるＨＯＰｅプリンシパル・ディレクターが、各国政府関係者や「ＧＣＨ年次リトリート 2024」関係者に対し、直接、その重要性を示し、共有することができた。